

# 関東アコーディオン演奏交流会

## 実行委員会ニュース

ホームページ <https://kantoacco.omiki.com/>

第38回

準備会号

2026.3.25 発行

編集 広報部



## 第38回 関東アコーディオン演奏交流会

開催日：9月20日(日) 会場：北区滝野川会館 開始：10:00

### 《重奏・バンドア/ンサンブル・合奏》



イラスト 後平

最近能楽に興味が出てきて...鼓の音が好きで、室町時代の雰囲気、何となく描いてみました。

### 目次

- 運営協力金へのお礼...2P ■20周年記念 お楽しみ Music Box Luann...3~4P
- サジヒロミ 冬のソロライブ...5~6P ■歌声音楽会夕焼け合唱団とともに...7~8P
- 越智まどか&フレデリック・ダヴェリオ デュオ・リサイタル「ボレロ」...9~10P ■JAPC 主催  
アコーディオニスト・大新年会 2026...11~12P ■中山英雄を偲ぶコンサート...13~14P
- 横浜アコーディオン愛好会 発表会...15~16P ■江藤ようこバースディーライブツアー  
見ごろ(56)聞き56 わらい56! 湘南編 17~18P ■ホワイトボード...19~20P

## 第 38 回 関東アコーディオン演奏交流会は 9 月 20 日(日)開催に決定!

重奏・バンド/アンサンブル・合奏

2026							<b>9</b>	September								
Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat										
			1	2	3	4	5									
6	7	8	9	10	11	12										
13	14	15	16	17	18	19										
<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>	<b>23</b>	24	25	26										
27	28	29	30													

■募集要項は、5 月発表を予定しておりますが、都合により 6 月になる場合もあります。



### 「運営協力金のお礼」

第 37 回演奏交流会開催にあたり、「運営協力金」のお願いをいたしましたところ、多方面の方々より温かいご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。

お陰様で賜りました協力金は、交流会の運営に様々な形で活用させていただくことができました。心より感謝申し上げます。

これからも、「みんなで学びあう」という主旨を大切に、第 38 回の成功を目指して参ります。

今後とも、変わらぬお力添えを頂きますよう、どうぞよろしく

尚、「運営協力金」の総額は 103,500 円となりました。そして、ご支援下さった個人の方のお名前と団体名を記載させていただきます。

**個人** (五十音順、敬称略)

青木希羅 石橋友子 井上悦子 工藤絵里 関根貞夫 園山三左子 鳥塚みや子  
橋本千香子 平木啓子 廣瀬靖子 本荘雪子 水野美緒 山口伊知郎 和里田えり子  
匿名 4 名

**団体** (五十音順、敬称略)

秋川アコーディオンサークル ウインドバスカーズ有志 55AC  
福島アコ研究会ドレミ

※関東アコの会計年度は、3 月 1 日から翌年 2 月末のため、お礼とご報告は今号(準備号)に記載させていただきました。



## ビッグママ・プロジェクト 20 周年記念 お楽しみ Music Box Luann (るあん)

2025 年 11 月 30 日(日) 14:00 開演 社のホールはしもと(大ホール) 神奈川県相模原市

すっかり恒例となった、Luann (るあん) の「お楽しみ Music Box」です。今回は 20 周年記念企画ということで楽しみに出かけてみると、たくさんの小箱が用意されていました。

### 一般社団法人ビッグママ・プロジェクト

「ビッグママ・プロジェクト」は、相模原市を拠点に文化活動を行うグループ。読み聞かせボランティアのお母さんたちの小さな輪がきっかけで 2005 年より本格的開始。一音一会の出会いの中で、活動の幅を広げてきた。企画・制作から実演まで、全て行うのも特色の一つ。相模原市との協働事業では、学校教育課との連携で「絵本コンサート事業」(2010～市内の小学校を巡回)、青少年相談センターとの連携で「音風景事業」(2014～不登校の児童・生徒が通う相談指導教室にてワークショップを実演)2008 年法人化。自主公演の「お楽しみ Music Box」は不定期にシリーズ化、ファンの心をつかむ。2025 年 11 月 30 日活動 20 周年を迎える。  
代表理事：千葉薫 関山さえる(プログラムから転記)

### プログラムの構成

《序章》にはじまり 7 つの小箱が用意され、最後に「Finale」という構成です。それを順に紹介しましょう。

《序章：～はじまりの小箱～》♪「ぼく にげちゃうよ」・・・ピアノ(千葉薫)伴奏と手拍子の中、セッキーの登場。『記念すべき 20 周年にこんなに集っていただいてありがとうございます』とあいさつ。(大ホールは満席でした)

#### 《1 つめの小箱》♪「はらぺこあおむし」

ご存じ、エリック・カール作の絵本です。うたのおはなし：コースケ&ユイ&チュチュ(千葉薫さんの息子&娘&3 歳の孫と紹介) 手作りの絵本を使って千葉薫さんのピアノ伴奏で 3 人が絵本の文を歌で語ります。



《2 つめの小箱》～ボンジュール、Luann～  
お客さんと一緒に呼ばれて登場した“セッキー”は、『ボンジュール』とあいさつすると、

『さあここは日本ではありませんよ、あそこにエッフェル塔見えますか?、あっちには凱旋門が見えますか?、ここはパリで有名な何通りだかわかりますか?』と早速お客さんをパリの街へと誘います。

早速、♪「おおシャンゼリゼ～パリカナイク(歌：管幸美)」そして♪「Style Musette～La Noyée」と続きます。Style Musette の軽快な演奏はとっても素敵でした。



ここで『「お楽しみ Music Box」初めての方どれくらいいますか』と客席に訪ねたところ、意外とたくさん手が挙がったのには、リピーターが多いのではと思っていた筆者もちょっと意外な結果でした。少し時間を使ってアコーディオンの音の出る仕組みやいろいろ付いているスイッチの機能、またボタン式、鍵盤式の種類について解説されました。

そして、2 つめの箱の最後の曲♪「ルーマニア民俗舞曲」へと進みます。

#### 《3 つめの小箱》～チカさんコーナー～ ♪「宮嶋千夏&たろうくん(5 さい)」腹話術・・・

チカさんは、たろうくんとはしばらく会話した後、手遊び歌の♪「大工のきつつきさん」を、膝を叩いたりハッと驚いたり表情を付けて(ホール ディアー ホールディククア ホールディクク・・・)とお客さんと一緒に歌い手遊びを楽しみました。

《4 つめの小箱》箱を開く前に、ここでの演奏者「Coucou! Accordéon」を紹介。

アコーディオンを中心に演奏活動され、現在、

渋谷でアコーディオン教室の講師をされている千葉薫さんとその生徒による演奏です、と紹介。赤、緑、黒、青のドレスで登場。演奏曲は、♪「巴里祭」、そして二人加わり6人で、♪バッハの「Air」を演奏されました。「Air」ではやわらかなオルガンの音色がホールに響きわたり第1部を終了しました。



・・・休憩 15 分・・・

《5つめの小箱》♪RPG(合奏)2024年度相模原市二本松小学校卒業生有志。構成：「リコーダー(4)、鍵盤ハーモニカ(4)、木琴(1)、鉄琴(1)、ソプラノアコーディオン(3)、アルトアコーディオン(1)、テナーアコーディオン(1)、バスアコーディオン(1)、ピアノ(1)」。明るく元気一杯演奏されました。

《6つめの小箱》～Kaoru Trio～ Kaoru(acc.)、Akira(Bass)、Seimei(Drums)演奏曲は、タンゴの名曲♪「Por Una Cabeza」、ミュゼットの名曲♪「Flambée Montalbanaise」(モンターバンの火)の2曲演奏。



《7つめの小箱》～デラックスるあん～メンバー：るあん+Akira(Bass)&Seimei(Drums)。曲は、♪Game of Thrones～♪場末のJAVA。最初の曲はドラムのソロで始まり宇宙へと広がるようなのびやかな演奏です。2曲目は、千葉薫さんの師匠、アコーディオニスト檜山学さんの曲で、コンサートの中でも大事にしているとうかがったことがあります。

続いたの曲は♪「コーヒールンバ」(歌：管

幸美)。続いて♪「銀座カンカン娘(歌：饗場文恵)お客さんは手拍子と“それは銀座のカンカン娘”のところはいっしょに歌い楽しみました。

続いて♪8 1/2(ハッカ ニブンノイチ)この曲をバックにメンバー紹介をし、次第にテンポを上げて盛り上げていました。もう1曲「情熱大陸」を演奏され、最後のステージへと進みます。

《Finale ステージ》となりました。

特別に編成されたCoucou!Accordéon(4つめの小箱で出場)+Luannによる演奏です。最初に、ブランデンブルク協奏曲第3番第1楽章をCoucou!Accordéon(アコーディオン8台)で演奏します。



2曲目は、♪「見上げてごらん夜の星を」これには、1つめの小箱「はらぺこあおむし」で出場したコースケ&ユイさんが歌で加わり、6つめの小箱に出場された「Kaoru Trio」のベース&ドラムスも加わった演奏でした。

そして3曲目は、更に5つめの小箱に出場の二本松小学校卒業生有志が加わり出場者全員登場で、♪ゆかいに歩けば～♪ピア樽ポルカ～♪小さな世界とメドレーで演奏。最後の曲でLuannのメンバーは会場を練り歩きました。お客さんは曲に合わせて手拍子と一緒に楽しんでいました。

アンコール!アンコール!の声に、♪ジョン・ライアンズ・ポルカをくり返し演奏して幕を下ろしました。この後出場者はお客様と一緒に記念写真を撮られていました。



演奏会でした。※写真：主催提供 (記：乙津)

地元、相模原で活動され花を開かせた20周年を記念する素敵な演奏会でした。

## ミニアコーディオン弾き歌い サジヒロミ 冬のソロライブ

2025年12月6日(土) COFFEE SPOT LIFE 開演 14:30

歌と演奏による『弾き歌い』ソロライブです。会場は、川崎市中原区（JR 南部線「武蔵中原」駅から徒歩2分です。駅前ではあるけれど、目の前は総合電機メーカー（富士通本店）、お店側は住宅街になる地域で、こだわりのコーヒーを楽しめる喫茶店です。店内にはピアノが置かれ週末にはライブを行うことがあります。幸いなことに会場が筆者の地元だったのでしばらくぶりでしたが出かけてみました。

オープニングは「小さな世界」(世界中 どこだって・・・)。1曲演奏した後、アコーディオンはもともとヨーロッパの民謡を演奏するために作られたといわれています。などとアコーディオンについてちょっと解説。



そして外国の民謡で日本で親しまれている歌を歌ってみたいと、イギリスの民謡といわれる「スカボロー・フェア」へと進みます。続けて、イタリア語で「歌」を意味するカンツォーネ、大衆歌曲として明るいメロディーで日本でも親しまれていると解説して「サンタ・ルチア」、「帰れソレントへ」、「オー・ソレ・ミオ」、「フニクリ・フニクラ」など弾き歌い。また、ヴェスヴィオ山の登山電車（フニコラーレ）を運営する会社のコマーシャルとして書かれた曲といわれている「フニクリ・フニクラ」を弾き歌い。

この後、「アルプス一万尺」(アメリカ民謡)  
※歌詞の解説の際お店のマスターから、お客さんから頂いた槍ヶ岳の写真が壁にかけてあると紹介された写真を見たので歌詞のイメージが良く理解できたのではないのでしょうか。

続いて「山の音楽家」(ドイツ民謡)、「おお牧場はみどり」(チェコスロバキア、ボヘミア民謡)、「森の熊さん」(アメリカのボーイスカウトで歌われていた曲を原曲とする日本の童謡)、「おおブレネリ」(スイス民謡)、「森へ行きましょう」(ドイツ民謡・ポーランド民謡)を弾き歌いした後、それぞれ曲の元歌がどこの国の歌なのかをお客さんに答えてもらったりしながら進行しました。

世界の民謡の次は、日本の唱歌メドレーです。「ペチカ」を始めに、お客さんも一緒に“せっせーのよいよいよい”と曲と曲の間にかけ声を入れて次の曲へとつないで歌います。♪てるてる坊主⇒♪かごめかごめ⇒♪通りゃんせ⇒♪七つの子⇒♪ふるさと⇒♪夕焼け小焼け。



続いてはシャンソンのコーナー(シャンソンとは、フランス語で「歌」という意味ですと解説)また、2024年2月、生誕100年を迎えた日本のシャンソン歌手越路吹雪さんに憧れてシャンソンに魅力を感じて勉強中というサジさんは前半の最後をシャンソンのメドレーで

閉じていた。曲は「ろくでなし」「サン・トワ・マミー」「ラストダンスは私に」「愛の讃歌」「おおシャンゼリゼ」と続け、最後は、「銀座のカンカン娘」カンカン娘”のところはお客さまと一緒に歌います。ここで前半を終了（この後休憩）



後半は、ステージを一緒に創る友達の紹介からスタートします。恥ずかしがって隠れているお友達（ぴんかちゃん）を呼び出す歌『もののけ姫』をうたい終わったら“せーの”に続いて「ぴんかちゃん」とお客さんと協力して呼びます。ぴんかちゃんは泣いて（目から涙が落ちている）登場します。

そこで、小泉今日子の「木枯しに抱かれて」を歌うと涙が止まります。（ぴんかちゃんは元彼との恋が実らなかったストーリー）そこでぴんかちゃんが元気になる歌を歌います。

歌も変わって、千と千尋の神隠しの主題歌「いつも何度でも」をアップテンポで弾き歌いへと進みます。すると、ぴんかちゃんも（私歌うは）と歌いたくなり「カントリー・ロード」を

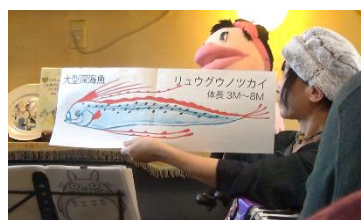


歌ったらぴんかちゃんお腹がすいてきました。

たまたまライブをお母さんと聴いていた小学生の女の子に人形用に意用した食べ物（にんじん？）を食べさせてもらおうとと歌いた



介。ぴんかちゃんの思い描く魚へと物語が進み、



ストーリーはここまでです。

そして、フィナーレはオリジナルの曲で、「ヨーソロー」と船員のかけ声のところをお客さんに後を追いかけて「ヨーソロー」と歌ってもらう形の弾き歌いで終了しました。

当日のお客さんを見てプログラムを換えられるように、いくつかストーリーのパターンを用意してあって、小学3年生ぐらいの親子が聴いていたので日本の童謡やぴんかちゃんの登場、ディズニーのメドレー等の物語構成を選んだとおもうので、サジさんのレパトリーの広さを感じたソロライブでした。

また、開演時間までは一般のお客さんが利用していたから、指ならしの時間など無かったと思うので、川崎でのライブは初めてとおっしゃっていたけれど慣れない会場での苦労もあったのではないかと思います。（記：乙津）

# うたごえ音楽会 タヤけ混声合唱団とともに

2025年12月7日(日) 開演 13:30 元八事務所2階(東京都八王子市)

八王子で合唱団を主宰している橋本千香子さんから発表会のお知らせをいただきました。その発表会に音楽センターアコーディオン科土曜教室のメンバー有志がゲスト出演すると聞きました。橋本千香子さんは少し前まで関東アコ実行委員として中心的な役割を担っておられたかです。久しぶりにお会いする楽しみもあって足を運んでみました。

## 合唱団挨拶(メンバーの遠藤さん)

『発表会の会場は、夕焼け混声合唱団の練習会場でもあります。この会場で練習しながら年に1度発表会を開催して約10年経ちます。今回は合唱団と一緒に歌っていただいたり、お聴きしていただいたりということで、合唱の雰囲気は是非味わっていただければと思います。そして、今回は素敵なアコーディオンアンサンブルをお聴きいただきたいと思います。』(挨拶から)

「Sing」の明るくはずんだ爽やかな歌声で開演しました。(写真↓)



『続いての3曲は、みなさんご存じの曲なのでいっしょに歌って下さい』と声かけがあり、1曲目は「おおブレネリ(スイス民謡)、2曲目は「シュワジュヴェチカ(ポーランド民謡)そして「ローレライ」。(プログラムを見ると曲名の後に歌集の中のページ番号が記されていた)簡単な曲の紹介を挟んで3曲歌いました。

『合唱団はコーラスで歌い、会場みんなは同じ音程で歌って頂きましたけれど、どうでしょうか、多少合唱の雰囲気をわかっていたかでしょうか。』(遠藤さん)と合唱団の問いかけにお客さんは拍手で応えておりました。

この後しばらく《～リクエスト みなさんと共に～コーナー》になります。

受付けで歌集(写真:右上)とリクエスト用紙と鉛筆が配られていて、書込まれた用紙を係の方が集めに回ります。伴奏はピアノで、オー



ブニングからすべて主宰の橋本千香子さんです。橋本さんはアコーディオンを弾かれるけれど、今日はピアノ伴奏でした。

最初のリクエスト曲は♪四季の歌(春を愛する人は・・・)

♪あざみの歌、と次々とリクエスト曲が集り、♪上を向いて歩こう、♪ピリブ、♪心の窓にともし灯を(いじわる木枯し吹き付ける・・・)、♪愛に生き平和に生きる(人は愛に生き 平和に生きる・・・)、と限られた時間の中でたくさん歌いたいと遠藤さんの進行で歌声喫茶のようにお客さんと一緒に歌い楽しみました。

再び合唱に戻り「線路の仕事」(アメリカ民謡)線路の仕事は何時までも・・・(線路は続くよどこまでも・・・と歌われた方もいると思いますと解説)ここで前半終了

・・・15分休憩・・・

## ゲスト アコーディオン演奏(三重奏)

始めに、ディズニーのアニメ「アラジン」の「A Whole New World」を演奏。(下の写真)



『混声合唱団のみなさんの歌声に元気をいただいて、これをアコーディオンで弾いたらどうなるのかなと思いながら聴いていました。私たちも「よし、いい演奏をしよう!」と背中を押された気持ちで、まずは1曲演奏させていただきました』とメンバーを代表して大淵恵さんが挨拶。(大淵さんは、かつて「バンド・アミ

ーゴ」のメンバーの一員として橋本千香子さんと一緒に演奏していた方です)

そして、今日ここで演奏するために作ったチーム名を「サムソワ」(フランス語で、サムディ ソワールの略)ですと紹介。(訳すると「土曜の夜」なので、土曜日の夜練習していることが由来のようです)。

続いてメンバー紹介。アコーディオン: 田村謙治、岡本順一、大淵恵と紹介。(拍手)

この後、2曲目はピアソラの「Ov Livion」(忘却)この曲は記憶が静かに薄れていく美しさを描いた作品と紹介。

そして、『せっかくアコーディオンを持ってきてフランスのシャンソンは弾かないのかな、と思う人もいるかと思うので、3曲目はアコーディオンらしい曲を演奏したいと思います。』と「巴里祭」を演奏。(下の写真)



また、拍手に応じてアンコールに、映画「千と千尋の神隠し」より「いつも何度でも」を演奏しました。(拍手)

・・・10分休憩・・・

再び合唱を楽しみます。後半最初の曲は「ダンカングレイ」(スコットランド民謡)♪ダンカングレイが お嫁を ハイ ハイディ フライ エ ライ・・・と歌います。歌詞を調べると、タンカングレイが求婚したとき、彼女にそっぽを向かれ悲しくなった。そんな言葉がくり返されます。言葉の後に歌われる“ハイ ハイディ フライ エ ライ”は、はやし言葉でしょうか、どこか陽気な感じのする歌でした。原詞の訳を



～みなさんとともに～リクエストコーナーの様子

みると「歌詞の中に、ダンカンには優雅な若者だった」という言葉がでてきます。

続いて歌は、「黄金のリンゴの木をうえたよ」作詞: キムサンオ 作曲: キムオクソン 訳: ホ・ナムキ。♪たわわなリンゴの木を植えた 植えたら村に花が咲き・・・と歌います。曲名で検索してみたら、1960年に作られた曲で、国中にいろんなリンゴの木をたくさん植えて楽園を築いていこうと朝鮮人民の喜びと幸せを抒情的に歌っている・・・等と記されていました。

さて、『私たちもみんなと歌えて嬉しい。リクエストがきているのでできるだけたくさん歌いたい』と再び《～みなさんとともに～リクエストコーナー》です。歌った曲は、♪「もみじ」(合奏団は輪唱していた)、♪月の沙漠、♪学生時代、♪北上や曲、♪わすれな草をあなたに、♪昴、お客さんと一緒に6曲歌って最後のステージとなる合唱に戻ります。

『いま私たちにできることは歌うことだと思います。』と「ヒロシマの有る国で」作詞・作曲: 山本さとし (八月の青空に いまもこだまするのは 若き詩人の叫び・・・)と歌います。続いて、この歌はみなさんも一緒に歌って欲しいと歌集のページを紹介。「花～すべての人の心に花を～」(川は流れて どこどこ行くの・・・)そしてフィナーレは、八王子にゆかりのある歌「夕やけ小やけ」みなさんもどうぞいっしょに歌いましょうと呼びかけて、ちょっとゆっくりめのテンポで♪夕やけ小やけで日が暮れて・・・と会場いっぱい響かせました。

最後に合唱団の指導・伴奏をされている橋本千香子さんの紹介があり、大きな拍手で終了しました。後日、女声合唱団「アリオンコーラス」から通算すると40年の活動になるとお聞きしました。

久しぶりのコーラス、そしてアコーディオン三重奏を楽しみ、八王子駅で電車の発車メロディ「夕やけ小やけ」を聞きながら帰途に着きました。

(記: 乙津)

## 越智まどか & フレデリック・ダヴェリオ デュオ・リサイタル 「ボレロ！」

2026年1月4日(日) 開演 14:00 会場：渋谷美竹サロン

寄稿 後平濤子

お屠蘇気分も抜けやらぬ新年四日、渋谷で催されたピアノとアコーディオンのコンサートを聴きに行きました。たまたま年末、フェイスブックでフランス関係のグループの投稿を見ていたら、コンサートのお知らせが目に入ったのです。浅学の身ゆえ、演奏者のお名前は存じ上げませんでした、「なぬ、フランスのアコーディオニスト？ 珍しい！」と、飛びつかんばかりに、急ぎチケットを予約。ちょうどその日は、夕刻から渋谷の飲み屋で新年会が予定されていて、時間と場所がバッチリ合った、というのも理由のひとつでした。



チラシから転写

会場は、70人入れば一杯になりそうな、小規模なサロン。真ん中の通路をはさんで、椅子が左右に並べられています。早めに到着したので、幸い、座席はよりどりみどり。

「フランスの方なら、ボタンアコだろう」と勝手に決めつけ、奏者の左手がよく見えるようにと、通路から右側三つ目のかぶりつきの席をゲットしたのですが、この選択には後悔する羽目となりました。というのも、ダヴェリオさんの愛器は、鍵盤の「ヴィクトリア」だったからです。結局、幕間の休憩時間に、少しでも右手が見えるようにと、座席一つ分だけ左寄りに移動しました。

オープニングが近づくとつれ、空席はつぎつぎと埋まっていき、ついにはほぼ満席

に！ そのうち時間となって、ピアノの越智まどかさんと、アコーディオンのフレデリック・ダヴェリオさんが、まんなかの通路をとって舞台へと姿をあらわしました。

お二人はご夫婦で、ふだんはフランスを拠点に音楽活動をなさっている、とのこと。2016年にアンサンブルを組んで、今年でちょうど10年め。ヨーロッパを中心に、さまざまな音楽祭に出演し、好評を博しているそうです。

今回のリサイタルは「ボレロ！」と題されていて、「20世紀パリの熱気に触発された作曲家たちのダンス音楽を中心に」組まれたプログラム。(冊子解説より引用)。演奏される曲はすべて、作曲家でもあるダヴェリオさんと、越智さんの編曲によるものとか。

ピアノとアコーディオン。双方ともオーケストラ並みの音域と表現力の豊かさを誇る楽器。どのような競演になるのか、興味しんしんです。

最初の曲目は、ピアソラの『ブエノスアイレスの四季』。「春」から演奏するのがオーソドックスですが、お二人は、なんと、夏から始められました。いまの季節に合わせて、という配慮からだそうですが、確かに、日本ではいまは真冬、でも南半球のアルゼンチンは夏真っ盛り。その夏の気だるい空気感が、二台の異なる楽器で見事に表現されていました。

ピアソラ原曲をいったん潔く解体したうえで、ピアノとアコーディオンそれぞれに旋律、伴奏を割り振り、両者の役割を交代させながら、混然一体とした音楽にまとめあげる。そのアレンジ力、すばらしいです！ 「冬」、「春」を後半にもっていくことで、全体が大いに盛り上がりました。

次は、わたしのまったく知らない曲で、アメリカの作曲家、アーロン・コープランドがつくったバレエ組曲『ビリー・ザ・キッド』。西部の大平原を舞台に、ならず者ビリーの

逮捕・脱獄・死をテーマにした組曲で、初演は1938年だそうです。全曲は7つの楽曲から構成されていて、そのうち5つが演奏されました。

おとぎ話や男女の恋愛劇ではなく、伝説的な強盗を主人公にするとは！ 作曲者コープランドの選択に、意表を衝かれる思いです。日本なら、さしずめ石川五右衛門が登場、といったところでしょうか。映画でしか見たことのない広大な西部の景色、居酒屋の賑わい、主人公が銃殺される悲劇的なシーンなどを想像しながら、耳を傾けました。

ここまでの曲はすべて、フリーベースで演奏されました。

幕間をはさんで、第二部。椅子に座っているのは、ダヴェリオさんお一人。ご自身が作曲した二つのアルバム〈Le troisième jour〉(3日目)、〈Silence... on tourne〉(静かなワルツ)から12曲を、フリーベース、スタンダードベース両方を駆使して演奏されました。

どれも3-4分の短い曲は、それぞれことなる曲想やモチーフで展開され、モダンで変化に富み、まったく飽きさせません。右手の鍵盤と左手のボタンを同時にタイプライターのようによく叩いて鳴らしたり、速いパッセージを交えながらリズムを変えたりと、楽器のポテンシャルを最大限に活かしての演奏は、聞こえてくる音だけではなく、演奏者の動作を目で見る楽しみもあたえてくれました。45分間、一気呵成の怒涛のソロ。素晴らしかったです。

拍手の鳴りやまぬなか、ふたたびピアノの越智さんが加わって、最後の曲、ラヴェル作曲『ボレロ』の演奏となりました。有名なこの曲については、冊子の曲目解説から引用したいと思います。

「世界中で15分に1回は演奏されていると言われる1928年に作曲されたこの曲を、私たちにアレンジし、オーケストラとはまた違った魅力を表現することに挑戦しました。全体がひとつのクレッシェンドで構成され、2つの主題が繰り返され、最後の2小節で突然転調して終わるという名作を、

コンサートアコーディオンとピアノという2つの楽器ならではの豊かな色彩で描き出しました。どうぞ私たちのボレロをお楽しみください！」

曲全体をとおして、途切れることなく繰り返されるリズムは、冒頭にソロで提示されます。オーケストラでは小太鼓が演奏するのですが、それをダヴェリオさんは鍵盤を軽く叩く?はじく?ことによって表現。このリズムに乗って、まず主題のメロディーがフルートで演奏され、クラリネット、オーボエと、別の楽器に渡されてゆく。その音色の変化を、お二人は、アコーディオンのストッパーや多彩なピアノのアレンジによって、巧みに再現。ところどころコミカルな部分をはさみつつ、力強いベローシェイクや二つの楽器の複雑な掛け合いによって、ゆったりとしたテーマがしだいに緊張感と荘厳さを高めてゆき、クライマックスに達したところで、唐突に終わりを迎えます。観客を突き放すかのような幕切れが、かえって余韻を深めてくれて、なごり惜しい気持ちで白熱の演奏に拍手をしました。

アンコールは、ふたたびラヴェルの組曲『マ・メール・ロワ』から「眠れる森の美女のパヴァーヌ」。『ボレロ』の渾身の熱演とはうってかわった、物静かで、心にしみじみと響く曲です。主旋律を奏でるアコーディオンに、ピアノが優しく寄り添い、『ボレロ』の熱気と興奮を鎮めてくれました。

主役級の楽器であるピアノとアコーディオンが一緒になることで、ピアノのキンテートのキレのあるタンゴから、大オーケストラ顔負けの「色彩の豊かさ」まで。堪能した二時間でした。

終演後、ダヴェリオさんと少しだけお話をさせていただきました。次回は、秋に来日なさるご予定だそうです。コンサートのお知らせを、ぜひ日本のアコーディオン界にも、広く告知してまいりますよう、重ねてお願いいたしました。

お二人の演奏は、Youtubeでも視聴できるようです。ホームページは、<http://www.ochidaverio.com/>